

■特集

# 大同窓会を開催しました。

昨年9月28日、鳳凰会が主催し、大学3、4回生に在籍する卒業生を対象に“大同窓会”を開催しました。

当日は、約200名の学生や教職員が参加、恩師やクラスメイトとの再会を懐かしみ、会場内外で談笑し喜び合う姿であふれました。新立敏美鳳凰会長の乾杯の挨拶から始まり、参加教員の自己紹介を行いました。



会場の様子



ダブルダッチパフォーマンス



新立会長挨拶

その後、3回生より当時の懐かしい映像が紹介され、4回生はダブルダッチパフォーマンスを披露し、会場は大いに盛り上がりました。

また、全員参加型の立命館宇治クイズ大会では、学校に関わる問題が出題され、優勝チームには、鳳凰会より素敵な景品を贈りました。

最後に、チャールズ・フォックス学校長より閉会の挨拶が行なわれ、大同窓会は盛況の内に終了しました。

大学を卒業し、社会に出れば、これだけの規模で集まる同窓会も少なくなりますので、今後も鳳凰会として、卒業生同士の絆を強める機会をつくりたいと思います。



フォックス校長閉会挨拶

■新幹事説明会を開催しました。

3月7日、新立敏美会長より、新幹事（学年代表およびクラス代表）に、鳳凰会の概要や活動内容、幹事の役割などについて説明を行ないました。

鳳凰会新会員の皆さん、4月からの新生活に期待と希望で胸ふくらませておられることでしょうか。幹事さんを中心に同窓会を開いて交流・親睦を深めてください。

鳳凰会は皆さんを全面的にバックアップします。



■2012年度 鳳凰賞 激励賞を贈りました。

鳳凰賞は「社会的に高く評価される顕著な実績を挙げた卒業生の顕彰」を目的に制定されました。第1号表彰は、2005年度に小崎まりさん（94年卒）へ贈りましたが、同賞には後輩（現役中・高生）にも「激励賞」を設けています。

2012年度は下記の皆さんへ贈りました。3月7日に「授与式」を行い、正賞（賞状）および奨学金として個人5万円、団体10万円を贈呈しました。

- 加藤 未唯（高3）テニス
- 芦沢 宗臣（高3）ゴルフ
- 松本 悠里（高2）ピアノ
- 織田 佳那（高1）中国語
- 大西 勇輝（高1）サッカー
- 奥川 雅也（高1）サッカー
- 陸上競技部（高校）



- 磯邊 ひな乃（中学3年）フィギュアスケート
- 丸谷 空之（中学3年）空手
- 村田 智美（中1）ロボット競技



■教職員からのメッセージ

小野 房子



大学を卒業して38年間、英語科教諭として中高校に勤め、先日最後の授業を終えました。「また、来年先生の授業を受けたい。」と、お世辞とわかっていても嬉しいもので、その喜びが定年まで教師生活を続ける原動力となりました。本校には7年間お世話になりました。「先生、髪染めた?」「今日の服は・・・だね」と、

教室に入るや否や、英語で授業を始めようと意気込む私を削いでくれた卒業生、街で声をかけてくれる卒業生、素直で気さくな人が多く、精神的に安定した教師生活を送ることができました。楽しい思い出です。

38年間の教員生活前半は、「仕事と子育ての両立」のための戦いでした。私は京都の私学の中で育児休業制度を取得した第1号だと思いますが、女性の権利を獲得するための先人たちの運動や周りの人の理解と支えなど、多くの人に助けてもらい、また多くのことを学びました。私の宝です。

高度成長時代に就職し、そのうちに安定

した社会になると信じていたのに、グローバル化が急速に進み、非正規雇用が増えました。もはやグローバル化した社会から私たちは後戻りできません。いつの時代も「なりたい自分」の延長線上にどう立つかということを考えて、目の前のごとを地道に真面目に取り組むことが大切だと思います。物事をよく知り、自分の頭で考えて、行動する、そしてすぐに諦めないたくましさが必要です。特に生徒たちには、「何かの目的のため」ばかりでなく「幅広い教養を身につけるため」にしっかり学んで欲しいと思っています。ありがとうございました。



谷口 栄一



旧宇治高校で15年、立命館宇治で19年、計34年の教員生活をこのたび一旦終えることとなりました。今思えばあつという間の月日でした。たくさんの人たちとの出会いと、それにまつわる大切な思い出を胸に、新しい人生を歩み始めます。

旧宇治高校では奉職した年、前校長の汐崎澄夫先生に「軟式野球部を作らないか」と誘われ一緒にクラブを創設し、10人ほどの部員たちとともに一から作り上げていきました。辛いこともありましたが、

何とか一人前のクラブにすることができました。歴代の部員達の頑張りにも感謝しています。当時の私の教員生活を支えてくれたのは彼らのひたむきな姿であったことは間違いありません。野球経験のない私にとって、指導は困難なものでした。若さと勢いで乗り切ったと言っても過言ではありません。土日ありませんでした。長女が生まれた時も、顔を一目見てすぐに試合会場へ駆けつけたことを昨日のこのように覚えています。

すばらしい仲間にも恵まれました。互いに励まし合い、力を合わせ学校作りにも精を出しました。最高の仲間たちは今も私の財産です。ある日突然立命館宇治になった時は大変でした。すべてが変わってしまうのです。あの時の衝撃は筆舌に尽くしがたいものでした。その困難も生徒や仲間たちとも

何とか乗り切ってきました。1994年9月に立命館宇治となり、1995年の4月に新入生を迎えました。その間に起こった阪神淡路大震災の時も混乱の中、立命館宇治のスタートに向けて奔走していたことを忘れることができません。2002年の夏に現校舎に移転しました。三室戸校舎のお別れセレモニーの企画運営も大変な作業でした。

それから10年、立命館宇治は発展を続けています。今後さらにステップアップしていかなければなりません。それには卒業生の皆さんのお力は欠かすことができません。ご支援よろしく申し上げます。私も今まではちがう立場で立命館宇治を応援しつづけていくつもりです。長い間ほんとうにありがとうございました。改めて感謝の意を表します。



●中学合唱コンクール

2013年2月6日(水)に本校大ホールにて第10回合唱コンクールを開催しました。この日のために、各クラスが協力して練習を重ねてきました。朝から放課後まで学校中に歌声が響き渡っていました。

個性あふれる各クラスの歌声は、1年間のクラスの団結力・絆を一層高め、緊張感ある合唱コンクールとなりました。また詩の内容を理解し、音楽の力を表現してくれました。

気迫あるハーモニーは大ホールを包み込み、聴衆に大きな感動をもたらしました。

●最優秀クラス

- 1年5組(課題曲「変わらないもの」・選択曲「輝くために」)
- 2年5組(課題曲「春に」・選択曲「あなたに会えて…」)
- 3年4組(課題曲「河口」・選択曲「虹」)

●電子ブックリーダー「kobo Touch」を導入

2013年2月15日、楽天株式会社より電子ブックリーダー「kobo Touch」を寄贈いただき、その導入セレモニーが行われました。

導入セレモニーでは、チャールズフォックス校長が御礼の言葉を述べ、楽天株式会社CSR担当執行役員黒坂三重様より、「このkobo Touchと生徒の皆様が出会うことにより、読書冊数と読書時間の増加を期待するとともに、皆様の更なる可能性を広げるきっかけになるものと信じています。」と言葉がありました。また高校生徒会長から「このkobo Touchを利用できることにより、通学中にも読書をしやすくなります。読書の新しい可能性を広げる機会をいただき、本当にありがとうございました」と御礼の言葉がありました。その後、「kobo Touch」のデモンストレーションが行われました。今後は校内に「kobo 活用委員会」を設置し、読書量を向上させるとともに、教育分野における積極的な電子ブックリーダーの活用を促進していく予定です。



●中学3年生 IMコース進学者 22名

卒業が迫るとともに、生徒たちの進路もほぼ決定しました。本校高校には普通コース以外に、IBコース(国際バカロレア)、IMコース(1年間の海外留学)の2つのコースが設けられていますが、来年度IBに進学するものが10名、IMコースに進学する生徒は22名にのぼります。これは本校高校へ進学する一貫生全体の21%にあたり、5人に1人が国際系の進路を選択したことになります。またIMコースに関しては、過去に一貫生から20名を超える生徒がIM(SEL)コースへ進学したことはありません。彼らの多くが、オーストリア研修旅行での有意義なホームステイ体験による影響を受けています。加えて、IMコースへ進学するほとんどの生徒が中学から本格的に英語の勉強を始めた生徒たちであり、3年間の学びを自信にしながらも、チャレンジ精神あふれる選択をしたと言えるでしょう。今後さらに国際化が進むことは間違いなく、その波にのる彼らの活躍は大いに期待がもてます。



●スピーチコンテスト

2013年2月12日に高校2年生英語スピーチコンテストが開催されました。

今年度のテーマ「What I can do for you in the future」を通して、理想の自分の姿の実現に向けて今できることを考えました。

●出場者と結果

- 優勝 南出遼子
- 第3位 杉山優太 小酒卓也 松井友香 市川達也
- 準優勝 村田直史
- 土井航介 中田直志 山本麻祐子

●出場者の感想

- ・原稿を考える上で自分の将来について考える必要があったので良い機会になりました。
- ・スピーチ本番は緊張したというよりも楽しかったです。あんなに多くの人前で話すことは初めてでとても良い機会になりました。
- ・自分が伝えたいことを英語で表現するというのは、難しくもあ

りましたが、とてもやりがいのあることでした。  
・英語のスピーチのスキルの向上だけでなく、英語に対するモチベーションも上がり、自分にとってとてもよい機会になったと思います。  
・舞台上立って自分の思いを伝える難しさを知りました。これからも努力を続け、私の野望を実現したいです。  
・今回、全校生徒に向けてスピーチをしたことで自分の夢に対する思いを強くすることができたと思います。



●高2インド企画、大阪進出！！

2013年2月2日、3日開かれたワン・ワールド・フェスティバル(大阪上本町、大阪国際交流センター)に、本校初のブース出店を行いました。それは高校2年:学年企画インド支援プロジェクトです。

この企画は、2012年4月フリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ)のフェイス氏を呼び、世界の貧困の課題について考えた高校2学年は、HR運営委員会と共同してインド支援プロジェクトを立ち上げました。興風祭での展示と手作りアクセサリー作りを行い、1月までに各クラス紙芝居(小学生にむけた英訳もつけました)を作成しました。その紙芝居は、インド、ラジャスタン州北部の村の小学校に、FTCJの協力を受けながら送る予定です。今回は、その紙芝居の展示と、手作りアクセサリーの販売(売り上げ2万円)と一円募金(3000円)を行いました。多くの来場者に、本校の国際支援の一端を示し、立命館宇治の存在を示した出店でした。ブースには常時数名の生徒がインド企画の紹介と販売を行い、のべ13名の生徒がこの2日間に協力しました。

他、高2授業の政治経済で行った貿易ゲームのワークショップ参加など、1000人を超える参加者と、国際協力について語り合い、生徒の学びを広げる良い機会となりました。



●高校女子駅伝3度目の全国制覇

去る12月23日、女子第24回全国高等学校駅伝競走大会において、本校陸上競技部は5年ぶり3回目の全国制覇を成し遂げました。

1区から好位置につけ、徐々に追い上げ、最終5区でトップに立ち、そのままゴールテープを切りました。選手たちの日ごろの努力が実った感動的な瞬間でした。記録は1時間7分22秒。ライバルの豊川や興譲館を破っての見事な優勝でした。

区間賞はなく、5人がそれぞれの役割をしっかりと果たし、確実にたすきをつないだ結果でした。

24年連続出場は現在2校、全国大会を3回制したのは埼玉栄・筑紫女学園・豊川に続き4校目となります。両方の記録を更新しているのは本校だけです。

当日は、吹奏楽部・チアリーダーをはじめ、多くの中学生・高校生、保護者、教職員が応援に駆けつけました。応援をいただいた多くの方々に、心よりお礼申し上げます。

尚、3月1日には京都府副知事、市長をはじめ立命館学園、陸上関係者など約400名の参加による優勝祝賀会が盛大に催されました。

●女子第24回全国高等学校駅伝競走大会に優勝して

下を向くな、逃げるな いつも先頭の心がある限り 勝機はやってくる 勝っておごるな 負けて泣くな  
5年ぶり3回目の優勝を飾りましたことは、日頃より立命館宇治高等学校をご指導、ご協力、ご支援下さいました皆様に心より御礼を申し上げます。

入学当初より一度も気持ちを切らすことなく、ひたすら全国優勝だけを願い菅野七虹を中心に心を一につに挑戦した部員は最高です。

地味ではありますがバスをしっかりとつなぎ、送りバント駅伝が成功したのは、日頃から基本を忠実に心身ともに鍛え、ピラミッドや城の石垣のように何年経っても崩れない頑強屈指の全員の心の証であります。

菅野は本当に苦しく辛いことも多かったらう、青木は5ヶ月も走れなかった時もあったが良くぞ這い上がってきた、廣田は中学3年から高校2年生まで故障が多く初めて掴んだタスキの重みは、池内はネバーギブアップの精神を忘れないこと。岩井はこれからアドバイスをしてくれる人の気持ちを理解するともっと進化する。

立命館学園、立命館宇治中高教職員、陸上部後援会、父母の会、京都陸協、各中学、高校、大学、実業団の皆様、今後一層努力精進して参りますので変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

立命館宇治高等学校陸上競技部 監督 荻野 由信

●自然科学部の研究が優秀賞を受賞しました

2013年2月17日に行われた、第48回理科研究発表会(京都府私学理科学研究会主催)において、自然科学部は「エコキャンドルに最適な芯の条件を探る」「殻の破壊は真珠の形成要因になりうるのか」の2本の研究発表を行い、後者の発表が優秀賞に輝きました。

受賞研究の内容は次のとおりです。自然科学部が発見したイガいの天然真珠の形成要因を明らかにするために、岩に張り付いて生きているイガいの貝殻の一部をペンチで破壊し、1年後に採集して真珠の有無を調べました。その結果、どのイガイも破壊された部位には全く真珠ができていませんでした。そのことから「貝殻の破壊」はイガイ天然真珠の形成要因ではないことが明らかになりました。



**私たちは活動助成金を活用して同窓会を開きました。**

\*以下は2012年8月5日以降開催分です。

**■8月5日 バトントワリング部**

8月5日に立命館宇治中学校、高等学校バトントワリング部の同窓会を立命館宇治高校で行いました。この日は、現役で活躍している中高生約70人に加え、卒業生15人が集まり、ゲームをしたり、昼食をとったりして楽しい一時を過ごしました。また、過去の大会や6月に行われた今年度の大会のDVD鑑賞を行い、現役生が卒業生に今後の抱負を述べました。卒業生はバトントワリング部の活躍を知り、現役生は大学生や社会人の生活の様子を知ることができ、お互いに刺激を与え合いました。今後のバトントワリング部の活躍を見守っていききたいと思います。



**■8月19日 2012年卒**

ビーチでバーベキューをしながら同窓会を開きました。当初の人数よりも多く集まり大変盛り上がりしました。一番悔やまれることは、天候。あいにくの雨のため、「バーベキュー日和!!」とまではなりませんでした。持ち前の元気と仲の良さでそんな悪天候も気にならないくらい楽しい会になりました。今年の春の卒業以来の集まり。皆、それぞれの夢や目標に向かって頑張っており、そういった将来の話をお互いの今後の健闘を称えあうとともに、各々の今後の活躍を期待したいです。同窓会だからこそ明かされる、「いまさらな話」や「思い出話」に花を咲かせ、高校時代の楽しかった日々をこれからの頑張りの源とし、大学生活も焼いた肉と同様に噛みしめながら一日一日過ぎていきたいと感じさせられるそんな一日でした。次に会うときはより多くの人を呼び、さらに盛り上がる会を開きたいと思えます。本当に楽しいひと時でした!!ありがとうございます!!



**■9月1日 2004年卒1年6組**

2004年卒1年6組のメンバーで女子会を開催しました。1年生のクラスでは初めての同窓会で、開催が決まってからとっても楽しみに計画をしました。今回は全員の連絡先が確認できなかったため、少しずつ連絡をとれる人をたどって声をかけましたが、福岡や栃木など関西圏以外からも駆けつけてくれました。19時からスタートした会は各自の近況報告から始まり、大いに盛り上がり気が付けば3時間半が経過してびっくり!「初めで出会ってからもう10年以上!?!でも全然みんな変わってないね!」と学生時代のたくさんの思い出を話しました。「意外とみんな近くにいてんね〜」との声から、近いうちに集まる約束をしておおきとなりました。次はもっと多くの人々と集まれたらと考えています。



**■9月9日 2009年卒**

9月9日に2009年卒3年7組の15名で同窓会を行いました。現在は大学4年生になり、来年からは社会人になります。社会に出るまず一歩として、高校3年のときの担任にも来てもらい、先生から大人になるための大切な言葉を頂き、充実した時間を全員で過ごすことができました。また、興風祭での文化パルクのステージで演劇した時の話や、校外学習の思い出話でも盛り上がり、これからも一層頑張ろうというエネルギーをみんなからもう事ができて良かったです。また何年後か大人になっても、変わらず思い出話で盛り上がりたらいいなと思えます。



**■9月25日 2010年卒10組**

9月25日、立命館大学生は夏休みの最終日に2010年卒10組のクラス会を行いました。夏休みの恒例



行事となっているクラス会ですが、やはり3回生にもなるとみんな忙しいのか少しずつ参加者が減っています。といっても、みんな毎年楽しみにしてくれているのか、今年は20名で集まることができ、お互いの近況報告をしたりと楽しい時間を過ごしました。来年からはさらに開催が難しくなるかもしれませんが、来年も大勢で集まれたらいいなと思えます。

**■10月7日 1970年卒**

10月7日、昭和45年卒業、商業科・家庭科合同の同窓会を42年ぶりに、44名の参加者と当時の担任であった中川恵先生・角田郁子先生のご出席をいただきまして、開催する事が出来ました。私たちが還暦を迎え42年ぶりの再会で、最初は顔と名前が分からず、名札・アルバムと照らし合わせながらの会話も、時間が経つにつれ会話も弾み大いに盛り上がり、高校時代の楽しくほろ苦い思い出、結婚、子育て、そして孫の話と会話に花が咲き、次回の再会を誓いました。今回参加できなかった人の、次回の再会を楽しみに待っています。みなさん、ありがとうございます。



**■11月10日 2009年卒1組**

今日はいつもより多く、クラスの半分である15人が集まりました。教育実習に行っている2人のクラスメートの内、1人が東京の大学へ行ってしまったのですが京都に帰って来ているとのことで大人数が集まりました。もう大学も最上回生になり、全員の進路が決まっ



てそれぞれの将来についても話をすることが出来ました。大学院に進む人も、就職をする人も、これからもみんなで仲良く集まって話をする機会を設けられたらなと思っています。

**■12月21日 2009年卒2年10組**

高校2年の時のクラスで同窓会を開きました。このクラスは興風祭で文化パルクに出場したクラスです。毎日、練習をし、団結力のあるクラスです。今回は担任の先生を含め、31人で集まることができました。中学校から合わせると10年目の仲にある私たちは久しぶりに会ってもなんでも話せて、騒げる本当に最高の仲間です。同窓会では、先生が当時で作って下さったDVDを見て、その後クイズゲームと懐かしのレッツピンゴー!!をしました。とても楽しく、あっという間に時間が過ぎてしまいました。みんなありがとう!!来年からみんないろんな場所で活躍すると思います。これからどんな大変なこともあると思いますが、またみんなで集まって騒ぎましょう!また呼び掛けた際はよろしくね!!この度はありがとうございました。



**■12月26日 2012年卒サッカー部**

サッカー部OBで12月26日に同窓会を開きました。引退してからきっちりとした形でほぼ全員集まったのは初めてだったのでとても懐かしく、非常に良い集まりになったと感じています。この会では一人一人の現状やこれからの目標をみんなに発表しました。サッカー部を引退してからも、それぞれがそれぞれの場所、形で頑張っていることを確認することが出来ました。今回はとても良い会になりました。助成金を補助していただきありがとうございました。こ



れからも積極的に集まり親睦をさらに深めていきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

**■12月29日 2001年卒**

昨年末の12月29日に京都のグランヴィアホテルにて2001年卒業生同窓会が開催されました。卒業して12年ぶりの再会。同窓会は5年ぶりの開催。ということで当初、人が集まるか不安でしたが、60人を超える卒業生が集まりました。久しぶりの再会。当然2時間の1次会では足りず、2次会、3次会と盛り上がり、あっという間の1日となりました。最後は、「5年後の再会(同窓会開催)」を約束してお開きとなりました。今回参加できなかった方々も次回は是非来て頂けたら、うれしいです。



**■12月29日 2000年卒**

年末の12月29日に2000年3月の卒業生の同窓会を行いました。岩崎善博先生を含め62人が集まり、思い出話や近況報告で花を咲かせました。高校時代にあまり話をしなかった人でも、同窓会という場では気軽に話ができるものなんですね。本当に色々な顔に会えて、話せてよかったです。今回はいつになるかわかりませんが、みなさんまた会う日まで。



**■1月5日 2012年卒**

私たち硬式野球部卒業生は1月5日に同窓会を兼ねた新春サッカー大会と食事を開催しました。とても多くの仲間が集まり、卒業以来会っていなかった仲間にも会うことができとても嬉しかったです。冬だったこともありサッカーをすることになりましたが、久しぶりにみんなでスポーツをすることができ、1月のとても気温が低い日であったにも関わらずとても

いい汗を流しながら全員がすごく良い笑顔で楽しみました。高校生のころに厳しい朝練と三室戸グラウンドで培った体力は見事に衰えてしまい、足をつる選手が出るハプニングも起きましたが真剣な表情で楽しみながら体を動かしている姿は高校時代と変わらず、とても懐かしかったです。また、食事会では高校時代の思い出話や大学生活の話など永遠に会話が止まりませんでした。みんなの「立命館愛」を改めて感じる事ができた充実した一日でした。次はみんなで野球をやりたいです!!



**■1月5日 2008年卒6組**

1月5日、新年早々京都で久しぶりに集まりました。諸事情のある人たちを除いては、みんな卒業を3か月後に控えているという事もあり、就職や社会人に関する話が多く飛び交いながらも、懐かしい高校時代の話などで盛り上がり、本当に楽しかったです。東前先生にも参加して頂き、みんなの就職先の報告などを行いながら、真剣に先生と話をしている人の姿も目立ちました。これからそれぞれの道へ進み、それぞれに苦労もたくさんあると思いますが、やはり定期的にこういった形で集まって何気ない話をすることで、未来への活力となっていくような気がしました。今回参加できなかった人たちもいたので、また近いうちに集まればと思います!また会えるのを楽しみにしています!



**■1月19日 2009年卒寮生**

1月19日に河原町で2009年卒の寮生同窓会を行いました。突然の開催ではありましたが、東京の大学に進学した人も来てくれたので、久しぶりに大人数で集まることができました。3年間一緒に住んで

いたということもあり、高校時代や寮での思い出話は尽きることはなく、とても楽しかったです。時間があっという間に過ぎ、まだまだ話足りないというぐらいでした。4月からはみんな社会人となり、会う機会は減るかもしれませんが、今回来られなかった人も次回は参加して、全員で集まりたいと思います。ありがとうございます。



**■1月20日 陸上部**

今回私たちは鳳凰会のご支援のもと、2008~2010年度卒業の陸上部3学年で同窓会を開催させていただきました。卒業以来会っていなかった仲間とも再会することができ、近況報告や高校時代の思い出話で盛り上がり、笑いが絶えず、とても楽しい時間を過ごすことができました。高校時代は同じ目標に向かって毎日練習に励んでいた私たちですが、今は陸上を続けている人もいれば、違う道に進んでいる人もおり、それぞれの道を歩んでいます。しかし、高校時代で365日一緒に過ごした仲間との絆は進む道が違っても変わらないと実感させられた同窓会でした。年が経つにつれ、みんなで集まることも難しくなりますが、これからも定期的に集まり、この仲間を大切にしていきたいと思えます。こうしてみんなで集まることができたのも、鳳凰会からご支援をいただけたおかげです。本当にありがとうございました。



**■1月26日 1980年卒**

京都「ぎをん喜撰」にて昭和55年度卒業生が集まりプチ同窓会を開くことができました。また、鳳凰会の活動助成金ありがとうございました。こうした援助が50歳を迎えた私たちが、なんと30年ぶりに

出会えたキッカケを作っていたいた事、そして、我母校にも感謝いたします。クラスやクラブが違って、在校当時のようにあだ名で呼びあうなど、終始なごやかな楽しい時間が過ごせました。これからは集まった者で「55年會」を学年同級生に発信し、色々なイベントを企画をして今回より次回と、回数を重ねることに多くの人が集まれる会にできるように思っております。俺も私という人は、クラス、男女、クラブに関係なく最高の時間を過ごそうではありませんか。お待ちしております。



**■2月23日 ラグビー部OB会**

2月23日に立命館宇治高校のラグビー部OBの有志で集い、OB同士の懇親を図るとともに、立命館宇治高校ラグビー部のサポートについて、話を行いました。ラグビー部のサポートのあり方については、各々が想いを話し合い、また、懇親ではさまざまな意見交換を行うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今後については、ラグビー部支援のため、立命館宇治高校ラグビー部OB会結成していきたいと考えています。



## 活動助成金のお知らせ

“同窓会”開催に「祝い金」をお贈りします。クラブ、クラス、学年などで同窓会を大いに開き、親睦と交流を深めましょう!!

鳳凰会（同窓会）では、各種同窓会の開催を奨励するため、卒業生10人以上で同窓会を開いた場合、人数に応じて「活動助成金」として祝い金をお贈りしています。

### 【申請方法】

同窓会開催の前に（2週間前までに）、所定の申請書を事務局に提出してください。

申請書は、立命館宇治中高ホームページの「卒業生」コーナーにアクセスしてダウンロードしてください。

必要事項を記入したら、メールまたは郵送し、事務局からの連絡を待ってください。

「卒業生」コーナーのアドレス

<http://www.ujc.ritsumei.ac.jp/ujc/graduate.php>

なお、事務局あてに「申請書」を添付してメールで送りたい場合、その方法については上記同窓会コーナーの一番最後にある「メールによるご連絡はこちらへ」をクリックしてお問い合わせください。

## 申請要項

1. 同窓生10名以上の出席者があり、出席人数によって以下の金額を支出します。
  - ・10名～15名＝1万円
  - ・16名～25名＝2万円
  - ・26名～50名＝3万円
  - ・51名以上＝本部役員会で決定します。
 なお、同一の学年、クラブ、クラス、団体の同窓会への支給は年2回までとします。ただし、出席者の4分の3以上が同じ場合は同一の申請とみなします。
2. 同窓会開催2週間前までに、所定の申請用紙に必要事項を記入の上、開催要項（日時・場所・内容・代表者は必ず2名記入）を添えて事務局へ申請し、会長が決済します。決済後、事務局から連絡しますので、祝金を事務室まで取りにきてください。
3. 同窓会終了後、1週間以内に会報紙「鳳凰」へ掲載する写真一葉以上と記事原稿（400字以内）および出席者名簿（別紙の所定用紙）、領収書を必ず提出してください。

## クラブ・サークル補助金制度について

- クラブ・サークルを3名以上の鳳凰会会員で設立したら、クラブ・サークルを届け出てください。「申請書」はホームページからダウンロードできます。

卒業生の活躍

### 宮本 京介さん

本校卒業生の宮本京介さん（2009年度卒）がこの度、小説「順逆（じゅんぎやく）」（文芸社）を上梓しました。

「順逆」は、近未来を舞台にした政治小説であり、270ページを超える大作です。

宮本さんは、高校在学中、カンボジアに井戸を掘る国際ボランティア活動「Dig Future Project」のリーダーとして活躍した人物です。大学では政治学を学ぶ傍ら、同世代の若い人にもっと政治に関心を持って欲しいとの思いから、小説を書き始めました。今後の宮本さんの活躍に期待しています。



### ●宮本さんコメント

「ローマの休日」を御覧になられた方は多いかと思えます。私は、この映画の中で感銘を受けた一節があり、それは「今日の世界が求めているのは、若者が優しさや品位を心に取り戻すことであり…」と、城を抜け出したアン王女（オードリー・ヘップバーン）がジョー（グレゴリー・ペック）に言い放った寝言です。

歴史を振り返る時、「優しさ」や「品位」を持った若者が重要な役割を担ってきたことに気がきます。例えば、2010～11年に起きた「アラブの春」も、その

- クラブ・サークルに対して、「一人当たり年間6千円分」または「クラブ・サークルの年間経費の10%」のいずれか金額の低い方を上限として補助します。ただし、この補助金を受けたクラブ・サークルは年1回「決算報告」「構成員名簿」「鳳凰」掲載記事を提出し、総会またはそれに代わる幹事会に出席して活動報告をしてください。

例の1つでしょう。一方、昨今の日本では「若者は政治に対して無関心である」と報じられることがあり、「最近の若者は～」というお言葉を頂戴する機会も多いです。若い世代に生きる1人として、私もご指摘を真摯に受け止めなければならないと痛感しています。しかし、我々は決して「優しさ」や「品位」と無縁な訳ではないし、社会に対して無関心な訳でもないのです。ただ、それらが形として見えないだけで、問題の核心は、ほんの少しの「勇気」を振り絞れないという点ではないでしょうか。今回、私は4月15日に文芸社文庫から出版する『順逆』という小説で、政治と正面から向き合う挑戦をしました。それは自らが「優しさ」と「品位」に沿った「勇気」を体現させるためであり、政治の襟を正す立場にあるのは、私たち（有権者）自身であるという認識の下です。



この小説では、政治の無関心によって引き起こされた大事件を軸に話が進んでいきます。日本政治、延いては、その中で生きるエリート等が抱えるパラドックスや問題も僕なりに描きました。政治の腐敗と国民の腐敗が重なった時、民主主義はどうなってしまうのか？この問題意識を共有しつつ、これを機に、「優しさ」と「品位」を、共に日本の政治へ向けていく契機になれば嬉しく思います。



- ◆住所・氏名の変更、幹事（クラス代表）交代の場合は、必ず事務局までご連絡ください。
- ◆学校のHP上に「卒業生」コーナーがあります。ここから事務局へメールが送れます。

<http://www.ujc.ritsumei.ac.jp/ujc/graduate.php>

学校の様子、後輩（生徒）達の活躍がりは、  
こちらのアドレスへアクセス!!

<http://www.ritsumei.ac.jp/ujc/>